

翠風園 ひかり通信

Vol. 3 夏号



- 発行月： 平成20年6月
- 制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
デイサービスセンター翠風園
ヘルパーステーション翠風園
グループホーム翠風園
理事長 野水 清志
- 所在地： 〒950-1236
新潟市南区高井東2丁目13番33号
- 連絡先： 025-362-7600
- ホームページ：<http://www.suifuuen.jp/>



ご挨拶

主任生活相談員 寺崎 正則



初夏の爽やかな風が木々の緑とたわむれる季節となりました。この度、「ひかり通信」第三号を発行する事が出来ましたのも、偏に地域の皆様をはじめ多くの方々のお蔭様と、心より感謝申し上げます。

当初は一名のご利用から始まった翠風園も、今では一日何十名もの皆様からご利用して戴くまでになりました。私達は、ここに来なければ出会うことがなかったでありましょう様々な方とのご縁を戴き、毎日沢山の感動を味わわせて戴いております。

年若い私達が介護に真剣に取り組む姿を見て、胸からこみ上げて来る熱いものがあつたと、感想を述べて下さる方がいらつしやいました。また、この園に来て様々とお話をしていたら、周りの人の有り難さが分かったと、胸いっばいのご様子でお聴かせ下さった方がおられました。この世を旅立たれる今際の際まで、翠風園の職員の名前を呼んで感謝の想いをお伝え下さった方がおられました。

今になって思いますと、この様な数々の出来事から、そこに真心がなければ、決して心に響く介護は出来ないのだという事を、これまでずっと利用者様から証明して戴いて来たように思うのです。この様な尊き気付きも翠風園という場があり、ここに足を運んで下さる皆様がおられなければ、決して気付くことが出来なかった大切な事だったと、感謝の想いでいっぱいになります。

翠風園で働かせて戴く私達職員は、ひとりひとりがこの様な宝物を利用者様から沢山戴いております。その様な日々の歩みを私達の感謝の想いを添えて、地域の皆様方へお分かち出来ましたら幸いです。どうぞ今後とも、ご指導を賜りますようお願い致します。

～春の風景～



国道8号線沿いには赤・白・黄色のチューリップたちが可愛らしく並んでいます



ピンク・ラベンダー・オフホワイトの芝桜が翠風園の春を演出します



他にも、たくさんの花々が翠風園を囲んで色鮮やかに咲いています

今年の四月、翠風園の前庭に芝桜をはじめ色鮮やかな花々が咲き始めました。送迎時には、利用者様が「ワァ、綺麗に咲いたね」「花を見ていると気持ちが良いね」など笑顔で話をして下さり、私達職員もとても嬉しくなります。

昨年、この前庭は雑草が生い茂り、今年とは全く別の風景でした。

その風景を今の花園へと変える切っ掛けとなったのは、一年前、社会福祉法人正瑛会の理事・評議員会において、評議員の一人が提案下さった一声からでした。評議員の方のお言葉は「職員の皆さんに毎日五分で良いから鎌を持ってもらいたい」という内容でした。

短いそのお言葉に凝縮された想いとは、私達職員にとって不足していた事を気付かせて下さる温かい親心でございました。

社会福祉法人は、地域の皆様のご支援により成り立つ事業です。敷地を綺麗に整備することも介護の一環である、大切なことを教えて戴き有り難うございました。

その後、夕方になると職員全員で鎌を片手に草取りをするようになりました。毎日草を刈り、日に日に変わる大地の姿に触れていると、いつの間にか綺麗になることが嬉しくてたまらなくなり、自然と笑顔が浮かんで参りました。なかなか日常生活の中では少ない、大地と触れ合う機会を仕事の中で味わえることに、今とても感謝しております。

～心に残るお話～

～Kさん～

『私をもっと元気だったら、すぐにでも一緒に草取りがしたいわー。草取りをすると体が喜ぶのよ』

～Oさん～

『人は花を見ていると笑顔になるけれど、怒り顔になる人は誰もいないでしょう？ だから私は花が大好きなのよ』

～Sさん～

『私は来る度にこの花壇を見て帰るのが、一番の楽しみ・・・ちょっと見て来ますね・・・』



～Yさん～

『花もあまり世話を焼き過ぎては駄目ですよ。人間の子供も同じ・・・。雑草は何故こんなにスクスクと育つと思う？ 誰も手を掛けないから元気なの。可愛がり過ぎは、花も子供も良くないものですよ』

～職員～

『はい。草取りからこんなに大事な事を教えて下さって、有り難うございます』

～Yさん～

『私は当たり前を言っただけよ。ウフフ・・・』

利用者様と、晴れて過ごしやすい日には庭へ散歩に出掛けました。利用者様は、花を見ながら私達職員に様々なお話を聴かせて下さいました。

そして、「この土地を活かして、何か花を咲かせてもっと美しくしたい」と、職員からおのずと声が出て、昨年の秋、芝桜の苗を植えました。その苗は長い冬を越し成長して、この春ついに見事な花を咲かせました。

草を刈る作業は、私達の心を豊かに育ててくれました。今まで気付かなかった事に気付ける様になり、視野が広がった様に感じます。一つまた一つと次々に咲く花々の姿を見て、自分達も一緒に成長していこうと考えさせてくれる、貴重なひと時となりました。

これからも、利用者の皆様、ご家族様、また関係者の皆様のご来園を花々と共に心よりお待ちしております。

さあ、みんなで草取りを始めよう！！

草取りの風景です！職員みんなで楽しくやっています
大地の恵みを肌で感じられて、とても有意義です！！

甘～いイチゴ



新鮮ブロッコリー



グループホーム

庭と畑への想い

介護職員 宇田 五津男 いっお

グループホーム開設から三年が過ぎ、職員全員共通の想いで、入居者皆様が楽しく暮らせる環境作りに、日々試行錯誤しながら今日まで取り組んでおります。入居者様が健康で快適に過ごす事が出来たら、との想いから毎月行事計画を作成して、四季の変化あるグループホームを目指しております。

私の重点的な役割(想い)は、玄関先に四季を通じて花咲くフラワロードを作って差し上げたい、入居者様が玄関先に出て、散歩に出るのが楽しみに思える様にしたいとの想いでした。花の苗や種等、隣りの高井興野の知り合い宅から戴いて移植したり、地域の皆様の協力無くしては出来ませんでした。まだまだ納得出来るものではありませんが、これからも皆様から手助けを戴きながら、四季を存分に楽しめる庭にして行きたいと思えます。

次に日々の食卓に欠かせない美味しく安全な新鮮野菜を、入居者様から教えを請いながら、一緒に畑で作りたいとの想いから、畑作りが始まりました。今は退園された農業の大好きな入居者様が、鍬や鋤くわすきを家から持ち込んで下さいました物を使い、スコップなどで耕す事からの始まりです。

畑の場所は施設より確保して戴きましたが、すぐに使える状況では無く、石ころの中に土がある状態で、石拾いからのスタートでした。三年たった今でも沢山の石ころとの戦いです。入居者様から暑い時や肌寒い時でも、草むしりや水やりなど手伝って戴きながら、今日まで来れました。あれもこれも植えたい、作りたいと、希望は大きく膨らんで、園内の畑も手狭になって来ており、今は芝生の庭を少しづつ削り取り、畑に変えていく作業に取り組んでいます。



この野菜は、焼いても最高です！

草取りも
いい運動ね。

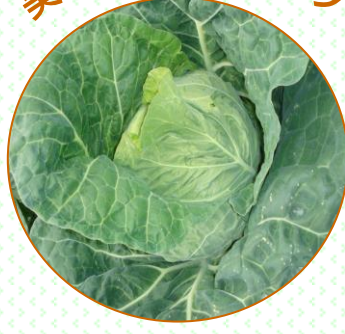


宇田さん、これからも一緒に美味しい野菜を作りましょうね。

豊作！玉ねぎ



美味し〜いキャベツ



ぎっしりそら豆



畑の作物の中で自慢出来る物といえば、無臭の薬用ニンニクがあります。作っている方は少ないのですが、健康な体作りには欠かせない物と思っております。味噌汁の具材や炒め物に刻んで調理し、無臭なので皆様気付くこと無く、召し上がられています。入居者様の冬の風邪予防に役立っていると自負しておりますが、これは私の一人よがりかも知れません。

私は個人的に新潟で畑も耕していますが、知り合いの奥様が病気（ガン）で、医者より後半の命と診断され、ご主人が悩まされていた時に、無臭ニンニクを毎日味噌汁の中に入れて飲ませるよう勧め、手持ちのニンニク全部を差し上げて、試して戴いた事があります。奥様は毎日食べ続けられ、まず顔色が良くなり、食欲も増進し元気になってきた、と報告がありました。気を良くした私は、毎年無臭ニンニクを沢山作り、その方に差し上げて来ました。余命半年と言われた奥様が、旅行に出掛ける迄元気に成ったと、とても喜ばれました。ご主人は、奥様と人生最後の三年の間、思い出作りが出来たし、長年迷惑を掛けて来た奥様に恩返しが出来たと、感謝とお礼の言葉を下さいました。

施設の畑の無臭ニンニクも大きく育って来ており、収穫が楽しみです。（植え付けてみたい方に分けて差し上げますので、ご一報を）

春の畑は、じゃがいも・ナス（長ナス・エンピツナス）・トマト（桃太郎・ミニトマト）・キュウリ・

カボチャ・苺・ブロッコリー・キャベツ・ピーマン・小玉スイカ・サツマイモ・ニラ・食用菊等、賑やかに植えております。雑草取りと戦いながらも、収穫時期が今から楽しみです。

入居者様と楽しみながら収穫し、料理し、舌鼓を打ちながら、次の作付けを考えています。読者の皆様の中で、お勧めの野菜などがありましたらお教え下さい。



時には、じゃがいも掘り。時には、イチゴ狩り。私達の自慢の畑をご覧下さい！！



ヘルパーステーション

平成十八年の暮れから訪問させて戴いている、K様という方がいらつしやいます。この方は、仕事上の事故で頸椎が損傷し、両手両足とも麻痺が残り車椅子とベット上の生活をしていらつしやいます。現在は週二回のデイサービスのご利用と、午前と午後の二回、排泄介助と車椅子への移乗を、奥様の協力の下、ヘルパーがお手伝いさせて戴いております。

私が訪問し始めて、丁度一年になりますが、伺い始めた頃は口数も少なく、話し掛ければ「どうして自分ばかり・・・」「事故さえなければ・・・」と、人生を儚んでおられました。

私は、この方の沈み込んだ気持ち但至少でも元氣になればと、お伺いする度に、移り行く季節の様子や話題になっているニュースなど、お話ししていました。

ある夏の日のことです。澄み切った青空に、秋を感じた私は、K様に爽やかな空の様子をお話すると、K様は、すかさず「三十年も寝てばかりいるから空の色も忘れた。思い出しもしない」と、仰いました。私は「若い頃は過去を振り返ったり、思い出に浸るなどと言う事は余りなかったけれど、今は昔を懐かしく思うことがあります。目を閉じれば色々な映像が見えて来ますが、K様はまだ若いという事ですね」などとお話をしている内に、K様の重苦しい気分も無くなり、奥様共々大笑いになりました。

すると、次のように心に浮かんで来ました。そしてそのまま、お伝えした事がありました。

愚痴一つ 言つたつもりが運の尽き 笑い飛ばされ 秋晴れの空



介護ヘルパー
眞保 マサ子

又、一週間ほど前にもポツリポツリと出てくるK様のお言葉が、言葉とは逆の『生きる』事への強い表れだと感じ、この時も、ありのままを歌に致しました。

手も足も 動かぬ寄立ち胸に秘め 生きる望みと 日ごと重ねて

この二首を紙に書いてお渡ししたところ、お孫さんがご覧になり、「お爺ちゃん、そのものだ」と、大変感心され全員が集まった夕食の時に読んで下さったそうです。それ以来、今まで以上に、会話が弾むようになりました。

一通り介助を終えて車椅子に移乗されたK様は、「今までだんまりを決めてきたけど、それでは気持ちに通じない事が分かった。これからは喋る様にしたい。うるさいと言われる位喋ろうと思う」と…。そして、帰ろうとした時でした。

「有り難う。喋ろうとしても、思った通りに言葉が出て来ないけど、これも訓練だ。せめて有り難う位言わないとね」と、仰られたのです。

働き盛りに事故に遭われ、軽い言語障害が残るK様は今日までどのような想いで過ごして来られたのか、その悔しさ、情けなさ、到底推し測る事は出来ません。

しかし、ご家族にとっては掛け替えない方であり、たとえ身体がどのような状態であろうと、K様の魂は『生きる』事を必死に学んでいらつしやるのだと思いました。本当に命の重さを感じずにはいられません。そして、K様がほんの少しでも明るく前向きなお気持ちになられた事は、とても有り難く嬉しい事でした。

毎日の事です。複雑な想いに気の晴れない事もおありでしょうが、今は愚痴っぽいお言葉は全くありません。訪問時間は僅か三十分でしかありませんが、時折覗かせるお心に希望の想いを乗せて、人生の貴重なひと時を共に歩ませて戴きたいと思っています。



「白根大凧合戦」の歴史を紐解く

* 写真の凧は、デイサービスの利用者様が、色塗り・貼り絵工作されたものです。園内の天井に飾ってあります。

今回は、凧合戦に詳しい評議員の山口正平様より「凧合戦の歴史」について、貴重なお話をお聴き致しましたので、ご紹介させていただきます。

白根凧合戦協会が出来てから約百年になりますが、それ以前の話は言い伝えによって語り継がれて来ました。一説によると、凧は水争いの道具として使われていたそうです。昔は堰（水路の水位・流量を調整するための構造物）が設けてあり、相手の堰を壊すために、意地悪をして凧を揚げてはぶつけていたと言われています。

凧合戦が始まったのは、中之口川が一番最初で間違いありませんが、その中之口川を整備して下さったのが上杉家、家臣の直江兼続公です。来年のNHK大河ドラマにも取り上げられる方ですが、中之口川は当時「直江川」と呼ばれていました。凧合戦の起源はいくつもの説があり、中之口川の実験が完了した際の「祝い凧」が大本だとも言われています。

白根と味方で合戦する様になってから、三百年以上経つとの事ですが、凧の絵柄は当時の人気の人物が描かれるので、その人物が生きている時代をさかのぼると、その位ではないかと推測される訳です。



今年も、利用者様と観戦に出掛けました！



昔の凧合戦は十日間もあり、更に雨が降れば日延べになるので、ひと月の半分は凧合戦だったそうです。農家の方が殆どなので、田圃が終わって泥だらけのまま、無地の法被を着て走っていました。それから時代が変わり一週間、現在の五日間と変わっていききました…。

今では凧合戦は観光になっていますので、女性の方でも揚げていますが、昔は凧を揚げられるのは男性だけでした。もし女性が凧の綱を跨いだといったら、烈火の如く怒鳴られて、わざわざ引き揚げて塩をまいて清めた位ですよ…。そして、男性だけでしたから大変厳しい世界でした。凧の準備には丸々一年掛かりますが、その間に礼儀作法、上下関係を学び、絆を深めて当日を迎える訳です。

凧の一番の魅力は何と言っても、自分達の作った凧がどの様に揚がって、どの様に相手の凧に引っ掛かるかです。正直申しまして、例え観客が少なくても私達は満足なんです…。

『凧に携わると、病みつきになりますよ』

翠風園の凧を作る切っ掛けは、私が自治会長をしている時に設立されたので、翠風園の歴史を残す為にも凧を揚げませんかと提案させて戴きました。

職員の皆さん、一つだけ誰にも負けないものを持って下さい！好きなものを持つっていると、仲間が出来るし、人間がとても広くなります。今年も是非、利用者さんと観に来て下さいね！

以上のようにお話しして下さいました。山口様、胸が弾むような素晴らしいお話を、本当に有り難うございました。



翠風園の凧は、毎年山口様が中心となられて、制作から凧揚げまでして下さいます。この図柄は「児雷也(じらいや)」といって、弥彦の忍者だそうです。山口様が図柄を選んで、申請・登録をして下さいました。



三時のおやつは、「一心太助」をあんこと生クリームで描いたホットケーキでした。厨房職員の力作です！

デイサービスセンターに 慰問に来て下さる皆様

「皆さんこんにちは！ ひまわり会で
す！」

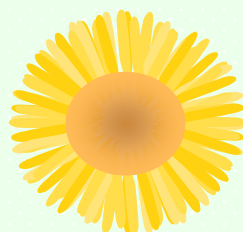
ひまわり会の代表者の明るい一声で
慰問が始まります。

デイサービスセンターは月に一回、
ひまわり会の皆様に来て下さり、踊りや
歌で私達を楽しませて下さいます。

慰問がある時は、隣接するグループホ
ームの皆様も来られて、「元気だったか
ね？」と会話が弾み、デイサービスとグ
ループホームの良い交流の場となっ
ています。



ひまわり会 代表の加茂様



ひまわり会の皆様の踊りを心待ちに
されている利用者様はとでも多く、「今
度はいつ来るの？」と指折り数える方も
いらっしやるほどです。

何よりひまわり会のまとめ役をされ
ている加茂様の笑顔が見る人の心に元
気と明るさを分けて下さいます。そし
て、ひまわり会の皆様は、真夏に咲くひ
まわりの様に元気よく、活き活きと踊っ
ていらっしやいます。

踊りが始まると、自然と手拍子が鳴り
出し、普段物静かな方も手を上げて踊ら
れます。

踊りごとに衣装が替わるので、歌のイ
メージに合わせた衣装替えも見所です。



『これから音頭』という踊りは、
いつも最後の踊りとなります。

とても活気のある曲で、職員を始
め利用者様も飛び入り参加して、賑
やかに踊っています。人生はこれか
らだと、これからの日々を明るく前
向きに歌って踊る、素晴らしい一曲
です。

そして、踊りが終わると、利用者
様からの「ありがとう」「元気に
なったよ」「楽しかったよ」と
いう感謝の言葉と、拍手が鳴り止み
ません。ひまわり会の皆様、本当に
有り難うございます。





今回はいつも輝いていらっしやる、ひまわり会代表の加茂様に、お話を聴かせて戴きました。

く ひまわり会のきっかけ く

最初は、私の家族が翠風園を利用したことがきっかけでした。私は以前から、健康ダンスを習っていましたので、家族を元気づけたいという一心で、「翠風園で踊らせてもらえませんか」とお話ししたのが最初です。

そして、一緒に健康ダンスを習っている友人達にも事情を話したら、快く賛同して戴いて集まったメンバーです。

初めの頃は、私達が習っている健康ダンスの発表会の様な気持ちもあり、自分達が踊って楽しむ方が優先していたかもしれません。

しかし、「このままではいけない」と思いまして、やはり「観て下さる利用者様が一番喜んで下さることは何か?」と思索致しました。

そこで、健康ダンスだけではなく、本格的な日本舞踊も取り入れることにしました。更に、利用者様の若かりし頃の名曲を選んで、合唱を加えて現在に至ります。

私は、利用者様もひまわり会のメンバーも、自分の周りにいて下さる方は全て「元気でいて欲しい」と願っています。これからも、ひまわり会を末永く可愛がって下さい!

く ひまわり会の名前の由来 く

翠風園の職員の方から、「グループ名はありますか?」と尋ねられ、着替えて使わせて戴いている部屋から外を眺めて考えていました。すると、ジリジリとした暑い日でしたが、一本だけひまわりが活き活きと咲いていたんですよ…。

私はそれを見た瞬間に「これだ!」と思っ、て、「ひまわり会」と名付けました。私達にピッタリでしょう?

今では多くの施設に慰問に伺っています。が、この名前を使っています。

私は、翠風園さんと深いご縁があるんだと思っ、て、このご縁を大切にしまいいりたいと思っ、ています。



職員紹介

＊ ＊ガッツ溢れる兄貴分＊ ＊

こんにちは。生活相談員の沼田です。新規の方のご自宅への事前訪問や、現在来られている利用者様のご自宅へ所用の為、伺わせて戴くなど、常に翠風園とご利用関係者の皆様とのパイプ役として何か少しでもお役に立ちたいという気持ちでやっています。

今後も両者の仲介役として精一杯努めて参りますので、宜しくお願いします！

デイ
サービス
沼田武



＊ ＊新人でベテランの看護師さん＊ ＊

こんにちは。3月よりデイサービスセンターで働かせて戴いております。利用者様は、私の両親と同年代の方で、中にはお体が不自由な方もいらっしゃいます。朝、到着されまして元気なお顔を拝見する事が何よりも嬉しいこの頃です。

日々健やかに過ごして戴けますよう、頑張ってお参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

デイ専属
看護師
和田みどり



＊ ＊とても心穏やかなお姉さん＊ ＊

グループホームに勤めて毎日が勉強の日々です。今まで当たり前で気付かなかった“楽しいこと”“幸せなこと”を介護を通して改めて知ることができます。これからも入居者の方々と過ごす時間を大切に、たくさん学んでいきたいです。これからも宜しくお願いします。

グループ
ホーム
荒木浩美



＊ ＊明るく元気なヘルパーさん＊ ＊

私がヘルパーステーション翠風園にお世話になって4年が過ぎました。利用者様のお宅を訪問して「待っていたよ」と喜んで戴く事が、私の大きなエネルギーになります。相手の方が何を望んでいらっしゃるのか一つ一つできるだけ感じ取り、心と心が通じ合う介護を目指していきたいと思っております。

ヘルパー
ステーション
井越美智子

